

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090900046		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ麦野		
所在地	福岡県福岡市博多区麦野3丁目15 - 22		
自己評価作成日	平成22年11月29日	評価結果確定日	平成23年1月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様の「笑顔」を一番に考え、より良い環境整備と、明るく楽しい生活を日々送って頂けるよう心掛けています。
 入居者様の安心、安全に配慮し、穏やかな日常生活と、体調と心身状態により、その人に合った習慣、リズムを整え、普段の生活がリハビリ、機能回復の効果をもたらせるよう、スタッフと一緒に、活気があり、笑いの多いホーム作りを行なっております。
 また、法令を遵守し、地域に開かれた事業所を目指しております。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

この1年の取組みとして、職員が積極的に地域活動に参加し、地域との連携を図り、利用者及び事業所を地域住民として捉え、受け入れてもらえるように努めている。また、センター方式を採用し、日々のかかわりや申し送り、月1度のカンファレンス等により情報の把握と共有に努め、個別ケースの検討・確認を行い、チームケアの実践に努めている。運営推進会議時を利用した地域包括支援センター職員による成年後見制度等についてのレクチャーをきっかけに、公民館で成年後見制度等についての説明会が開催され、地域と地域包括支援センターとの連携及び制度の正しい理解・周知のための情報発信へ取り組んでいる。この1年間での取組みが醸成されつつあり、今後更なる地域との連携が期待される。

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-)です。)

自己評価および外部評価票

ユニット名: 麦わらぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を掲げ、毎朝朝礼にて唱和し、実践に活かしていけるよう、スタッフ全員が意識を持ってケアに臨んでいる。	入職時の説明、相談室内への掲示、朝礼時の唱和等を通じて、理念の浸透への取組みがある。現在の理念は、法人変更に伴い職員から募り、まとめた理念である。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材の購入を地域の商店街で行い、日常的に交流できるようにしている。	気候を見計らった散歩時の挨拶、年に数回のホーム行事への地域児童の参加、子供会の廃品回収への協力、職員の地域清掃参加や地域防災訓練への参加等を通じて、地域との交流に努めている。	この1年取り組んでこられた地域との連携の取組みを継続され、利用者が社会の一員として社会の中で生きていくという実感を更に感じていただく為にも、気兼ねない日常的な利用者との交流が図られることを期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や関わり方についての相談や対応、見学や研修の受け入れ等、随時行っており、生活していらっしゃる入居者様のケア等に配慮しながら開放している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、ホーム内の活動報告や地域活動への取組み参加について話し合いを行なっている。報告や意見交換を行いサービス向上に努めている。	町内会長、老人会会長、地域包括支援センター職員等の参加により2ヵ月毎の開催がある。事業所からの報告の他、防災訓練についての話しや地域活動についての情報収集等が行われている。	省令にもありますように、まずは利用者・家族の運営推進会議への参加を図るとともに、全家族への運営推進会議の議事録等の送付を通じて、運営推進会議の持つ意味合いの周知と様々な情報発信への取組みに期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて報告、相談は行っている。運営推進会議に地域包括センターより、参加いただいている。空き状況の問い合わせや相談を受けている。	運営推進会議に、地域包括支援センター職員の参加がある。行政主催の研修会への参加やその都度の相談等を通じて、連携に努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事例が発生した場合は即座に身体拘束委員会にて会議やカンファレンスを行うこととしている。 また、ホーム会議や、勉強会にて身体拘束についての勉強会、スタッフの知識向上を行ない、実践に活かしサービス向上に努めている。	運営推進会議に、地域包括支援センター職員の参加がある。行政主催の研修会への参加やその都度の相談等を通じて、連携に努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム会議や、勉強会にて、スタッフの知識向上意識付け、リスク管理など実践に活かし、サービス向上に努めている。 また、スタッフとの面談や、日々の会話の中で心境や状態を把握に努め、意見交換ができるようにしている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	第5地域包括支援センターに依頼し、権利擁護や、後見人制度に関する勉強会を行い、スタッフの意識向上、入居者様のより良い支援に努めていく。	運営推進会議時を利用して地域包括支援センター職員より、制度等についてのレクチャーを通じて、情報発信が図られている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に読み合わせを行なっている。項目ごとに確認、理解、質問できるよう心掛けながら説明している。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・契約時に苦情、相談窓口を説明及び重要事項説明書に記載している。 ・玄関、ホールへの掲示している。 ・家族会を年2回行い、家族の意見、要望をお聞きし、ケア等に反映させている。	面会時の声かけやその都度の連絡、年2回の家族会後の個別面談などを通じて、家族の意見や要望の把握に努めている。家族から出された意見や要望等は、関係者間で協議を行い適切な対応が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議を行い、意見交換を行なっている。また、カンファレンス終了後に職員の意見や提案の時間を設け、協議している。個別相談も行っている。	日々の申し送りや月1度のカンファレンス等を通じて、職員の意見の聴取と検討がある。職員の要望から、勉強会のテーマを決めるなど、職員の意見・要望を汲みこんだ対応がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な社内研修参加や、自己評価シートへの記入、管理者との面談を行っている。スキルアップがある。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集、採用に関しては、特に制限を設けていない。職員の得意分野を伸ばせるよう、委員会活動、レクリエーションや行事などスタッフに任せることで、責任感や、やりがいなど持って仕事に取り組めるよう努めている。 資格取得の為に勤務調整など優先的に行なっている。	職員募集は、採用先を明示して法人での募集である。定年制を設けているが、職員の募集・採用にあたっては、その他の制限は行われていない。職員の希望による各種研修会への参加や資格取得の奨励、3日間の連続休暇の取得など、社会参加や自己実現への配慮がある。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホーム内での勉強会は行なっているが、外部への研修等は、積極的に参加できていない。 人権に関する教育、啓発活動に関しては、出来ていない。	職員は、高齢者虐待の勉強会を通じて、高齢者の人権について学んでいる。	職員の基本的資質である人権意識の喚起のために、様々な切り口による人権研修への取組み、行政等で行われる講話への参加や出前講座の利用など、さまざまな機会を利用した取組みを期待します。
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体経営会社主体の採用時研修、職員のスキルアップ研修、新卒者対象の研修など、随時行なっている。また、実践者研修時には、希望を募り、希望があれば、参加できるように調整している。不定期だが、勉強会も行い、知識向上の為に取組みをしている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域にある他グループホームの見学、意見交換等行なっている。また、系列事業所の職員と会議や電話にて、交流及び、情報交換を行なっている。 最近では、あまり交流する機会を作れていない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族より事前に十分な情報を頂き、日常的な会話の中で意思確認を行なう。また、思いや、状態など察知できるように努め、担当を設け、本人様が意思を伝えやすい状態、環境を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、御家族の話、状況、不安など、十分に耳を傾け、御家族の意向に沿ったお話し合いを繰り返し、連絡、相談を行ないながら、納得された上で、利用を勧めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の状態、ご家族様、本人様の意向を踏まえ、御家族、管理者、ケアマネジャー、ユニットリーダー、職員と連携、相談を行ない、対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事、洗濯、掃除、買い物、外出など、本人様の負担にならないよう、出来る限り一緒に行い、楽しく過ごせるよう心掛けている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、最近の状況報告を行い、御家族の意向を傾聴し、遠方の家族には、電話や書面にて近況報告、連絡をこまめに行なっている。会話や触れ合いを大切に、定期的に食事会を行い、行事、イベント時には事前に御家族へ連絡を行ない、お誘いしている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の状況に応じて、職員が支援し、なじみの方々との交流については、本人様や御家族と相談し、来訪、面会など多く場面を持つよう支援している。	宗教の継続、仏像へのお参りや仏壇の水換えなど、今まで馴染んできた生活習慣の継続支援がある。家族・知人への電話支援など、利用者の最大の馴染みである家族・知人との関係性の維持に努めている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや、お茶の時間などにお誘いし、職員が間に入って談笑を行なうことで関わり、触れ合いを行なうことで、入居者間のなじみの関係を構築できるよう努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に、相談や不安なことがあれば、いつでも連絡を頂きたい旨をお伝えし、出来る限り相談に応じるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、会話や、行動にて本人様の要望や思いに対して理解し、カンファレンス等でお客様の意向に添えるようにしている。また、アセスメントとして、センター方式の活用し、職員間での情報の共有、把握を行っている。	日々のかかわりを通じて、本人の思いや意向の把握に努めている。把握した思いや意向等については、センター方式の様式に記入し、申し送りやカンファレンス時を利用して情報共有に努めている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用、本人様、御家族様より出来るだけ情報を収集し、サービスに取り組み、穏やかに、楽しく過ごして頂けるよう活かしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人を把握できるように、日々の申し送り、カンファレンスによる情報の共有、ケアプラン、ケアプラン実施表を活用し、現状把握に努め、職員全員が対応できるよう努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様の意向、御家族様の意向、状況状態を基にカンファレンスを行い、報告事項、職員の意見を意向に添った形になるよう協議し、プランに反映させている。	日々の申し送りや月1度のカンファレンス等を通じての情報交換と確認が行われている。定期的及び利用者の状況変化に伴った、見直し・検討と現状に即した介護計画の作成がある。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき、個別の介護記録に日々の様子、状態を記入し、また、ケアプラン実施表や、支援記録などの記入を含め、実践に活かせるよう見直しや、カンファレンスを行なっている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の意向、御家族の意向に添い、入院先では、早期退院に向け、医師、関係者、家族と相談を行なう。可能な限り柔軟に、支援、サービスを行なえるよう努めている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様の特性や、状態を配慮し、実習生の受け入れを行なっている。警察や消防は、必要に応じて連絡、相談を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力提携病院の週一回の往診、連絡、相談を行ない、必要に応じて指示を仰いでいる。入居以前のかかりつけ医を希望された場合は、ご家族様の協力にて、受診して頂いている。	契約時に、今までのかかりつけ医とホーム協力医についての説明を行い、今までのかかりつけ医及び専門病院への定期的受診は、家族対応で行われている。ホーム協力医による週1回の往診、月1回及び必要時の訪問歯科の利用など、適切な支援がある。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力提携病院の看護師に、必要に応じて入居者様の状態、状況を連絡、報告し、相談を行なっている。また、定期的な訪問看護の利用もある。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、医師、看護師、ソーシャルワーカーなど関係者、御家族様と連携を取りながら、早期退院に向けた対応の構築、ホーム帰宅後の配慮など、情報交換を細かく出来る関係を作っていくよう努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて、提携医など、医師と相談し、本人様や、御家族様の意向を取り込み、支援、検討、協議を行なうなど、想定した話は出来ているが、早期段階での話は、細かく出来ていないのが現状です。	その時々の利用者の状況に応じて、段階的に家族の意向の把握と支援への取組みがある。全家族及び本人の意向の把握は今後の課題である。	人生をどのように生き、どのように送るかの決定権は利用者にあります。その時をどう迎えたいのか等、終末期に対する本人の意向の把握と情報共有に努められ、更なる利用者の尊厳ある暮らしの支援への取組みに期待します。
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網を作成し、緊急時は、管理者及びユニットリーダーに連絡、応急処置を行なっている。また、個人のかかりつけ医師に連絡し、相談、指示を仰ぎ対応している。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に、年に2回の訓練を行っている。運営推進会議にて、地域の協力、この地区の避難場所、経路の把握、緊急時の連絡網整備、緊急時の役割分担を取り決めている。	防火管理者のもと年2回の避難訓練の実施がある。避難経路の確認や、利用者に見立てた擬似的物体を使用した避難誘導が行われている。運営推進会議時の働きかけを通じて、緊急時の協力体制作りへ努めている。	非常災害時等における地域との相互連携体制が図られるよう、引き続き地域との連携への取組みに期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々に、最適な対応が出来るよう日々の居生活の中で声掛けや十分な観察を行い、プライバシーの保護に努めている。	職員は、勉強会を通じて人権やプライバシーについて学んでいる。利用者の状況を見守りながら、その時々に応じた適切な声かけなど、利用者を尊重した支援への取組みが見られた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人様の意向、要望や思い声掛けや会話の中で引き出し、自己決定を尊重した支援を自然に出来るよう心掛けている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活習慣やペースに合わせて行なっている。その中で、スタッフの声掛けにより、レクリエーション参加、会話、テレビ観賞、趣味の共有、入浴など自由に過ごして頂けるよう心掛け、散歩や外気浴など組み合わせ行なっている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容の利用、馴染みの美容室へは、家族に対応をお願いし、近所の美容室へは、送迎を行なっている。女性入居者様には、爪の手入れ後にマニキュアを塗ったり、お化粧品を勧め、男性入居者様は、髭剃りなど清潔を保持できるよう努めている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の嗜好品の把握し、食事に盛り込み、食事の準備、片付けを一緒に行なったり、ご自分で選んで頂き出前を取ったり、行事の際、バーベキューを楽しんだり、パンの日を設け、好きなパンを自由に食べて頂くなど、食事を楽しめるように心掛けている。	法人よりのメニューを基に、給食委員会にて季節のものや旬のものを考慮しながらの献立作成と、ユニットでの調理である。おやつ作りの準備など、利用者の出来ることを把握して、職員と利用者が一緒に取り組んでいる。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態に応じて食事の形状を変えたり、また医師や家族と連携、相談、指示を仰ぎながら、本人様が無理なく摂取できるように心がけている。声掛けをしながら、入居者様のペースで食事を摂って頂けるよう努めている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず、口腔ケアを実施している。定期的に歯科衛生士による口腔ケアおよび指導、訪問歯科による往診など行なっている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄状況を確認できるよう記録を残し、本人様の排泄パターンの把握に努めている。定期的な声掛け、誘導を行い、トイレにて排泄が行なえるよう努めている。	排せつチェック表にて、利用者のパターンを把握し、時間やタイミングを見計らった誘導、排便の確認・コントロールを行っている。利用者の状況により、日中、職員2人体制でのトイレ介助を行うなど、排せつの自立に向けた支援がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄状況を確認できるよう記録に残し、申し送りの際は、必ず伝達するようにしている。また、適度な運動、十分な食事、水分摂取を心掛け、本人様の状態合わせて行えるよう努めている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は1日おきに交代で入浴を行なっている。入浴時間の指定(入居者様よりの申し出)や、希望があれば、毎日入浴できるよう配慮している。本人様の希望を優先させて行なっている。	入浴準備は日曜日を除いて毎日しており、利用者の状況や希望に応じた入浴実施である。専用のシャンプー類や保湿クリーム類の使用、シャワーのかけかたへのこだわりなど、利用者の入浴時におけるこだわりへの支援も行われている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩やレクリエーション、個別ケアなどを行い、適度な運動を取り入れ、安眠に繋げている。入居者様の体調や状態においては、日中に休養時間を確保し、身体負担の軽減に努めている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法、用量については、別途ファイルにて保管している。薬の変更があれば、申し送りや、連絡ノートに書き込み、統一を図っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理補助、食器拭き、洗濯物たたみ、菜園の収穫、植木の水やり、フロア、自室の掃除、草取りなど役割を持ち、入居者様の能力、状態、意向に合わせて支援を行なっている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、外気浴、個別ケアなど、本人様、御家族様の意向、要望に相談しながら対応、支援を行っている。	利用者の状況や天候に応じた散歩や外気浴、利用者の希望に応じた近隣の理美容院の利用や買物など、外出支援が行われている。	利用者の状況等より、日常的な外出への取組みが難しいとは思われますが、日々のかかわりを通じて利用者の思いや意向を察し、事業所・家族等との協力のもと、個別支援としての外出への取組みを期待します。
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な入居者様には御家族と話し合い、所持して頂いている。嗜好品の購入など、買い物に行きご自分で選び購入できるよう、個別ケアにて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く際の協力や、ご自宅へ電話をかける為の協力、電話が掛かってきた際の取次ぎなど入居者様、御家族の意向、要望に添い支援を行なっている。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外観は、生垣や草花があり、共用スペースには自然採光や、風通りが良く、ソファなどでゆっくり、落ち着いて過ごせる。また、1階の庭には、ウッドデッキがあり、外気浴など会話や、お茶をしながら過ごせる。	玄関ホール、廊下、リビングや和室などの共有スペースは、季節を意識した飾りつけがさりげなくされている。利用者は、自然とリビングに集い談笑している姿から、居心地のよさが伺える。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、リビング、共用の椅子やソファなど、入居者様各々に好まれる場所でテレビ観賞、会話、音楽鑑賞などされ、過ごされている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたベットや家具、ご自分の馴染みの深い物を持ち込んで頂き、慣れ親しんだ雰囲気に近い環境に整え、過ごしていただけるよう配慮している。また、入居前に、御家族様にも居室内の環境作りに関して、相談や説明を行っている。	居室には、ベッドや箆笥、写真、仏壇、仏像などの馴染みのものや思い出のものが持ち込まれており、人となりが見える居室となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行動線上には、手すりの設置、トイレ浴室内には、呼び出しボタンの設置、エレベーターの設置、洗面台の高さ配慮など入居者様の様々な状態に対応できる環境整備、見守りを行っていく中で、一人ひとりの状態に応じ、自立支援に向けて取り組んでいる。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			